

点検評価シート

政策1 人権教育

第1項 人権の尊重と権利の擁護

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)人権施策の推進	①人権の啓発 ②人権教育の推進	○管理職及び一般教職員対象の研修会の充実 (入間市人権教育研修会3回、西部地区人権教育実践報告会、入間地区人権教育研究集会、入間市人権教育実践報告会を実施)	計画通り実施	入間市人権教育研修会2回実施。西部地区人権教育実践報告会、藤沢中発表。入間地区人権教育研究集会、各校2名参加。入間市人権教育実践報告会、上藤沢中発表。	4	4.3	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、入間市人権教育研修会は2回の実施、西部地区人権教育実践報告会は中止、入間地区人権教育研究集会は紙面発表、入間市人権教育実践報告会は開催せずに報告書を送付した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○入間市人権教育推進委員会による小・中学校で活用できる指導資料の作成	指導資料を2本作成	指導資料を2本作成	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、推進委員会は人数・回数などの規模を縮小したが、人権教育に視点を置いた教員の資質向上に寄与する資料を作成することができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○「人権標語」「人権作文」への積極的応募・出品(全小・中学校を対象)	全小・中学校(27校)	人権作文、27校出品	4		新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「人権標語」の取組が中止。「人権作文」については、全小・中学校から積極的な応募があった。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○人権問題講演会・フィールドワーク等、研修会の開催	人権問題講演会、フィールドワークの開催	人権問題講演会1回、人権啓発講座5回の開催、フィールドワークは中止	4	4.7	人権啓発講座については、公民館と共催で実施したことで、昨年よりも多くの5回講座を開催できた。新型コロナウイルス感染症拡大対策の観点から、フィールドワークは中止した。人権問題講演会は、感染症対策を講じた上で開催した。	事業の開催時期や講師選定、フィールドワークの視察先選定が課題である。	社会教育課
		○人権教育推進事業の実施と人権教育実践報告会の開催 (小・中学校PTAによる家庭教育学級・公民館における推進事業)	2校のPTAで各5回以上の開催、人権教育実践報告会1回開催	2校のPTAで各2回開催、人権教育実践報告会は報告書送付	4		指定PTAは新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で各2回開催できた。入間市人権教育実践報告会は開催せずに報告書を送付した。	人権課題は多岐にわたるため、テーマ設定のほか、リーダーとなるPTA役員や公民館職員の育成が課題である。	社会教育課
		○人権教育推進協議会の開催	3回開催	3回開催(3回目は書面開催)	5		「性的少数者の人権に関する教育を推進するために」をテーマに、3回開催することができた。	人権教育の円滑な推進を図り、明るい未来の地域づくりに寄与するために、どのような活動ができるか検討する必要がある。	社会教育課
		○視聴覚教材の購入と貸し出し	人権啓発DVDの購入と貸出	啓発DVD2本購入、視聴者数2,120人	5		啓発DVDについては新たに2本購入し、視聴覚教材をより充実させることができた。また、貸し出しについても活発に行われ、視聴者数も延べ2,120人となり、多くの市民へ啓発を行うことができた。	啓発DVDについては、大変高価であるため、多様化する人権問題に対応できるものを精選して購入する必要がある。また、過去に導入したビデオの中には、今後も視聴できる内容のものもあり、これらを新たにDVDとして購入する必要がある。	社会教育課
		○啓発用品の作成と活用	人権啓発用品の作成	啓発用品(ウェットティッシュ)の作成と事業での活用	5		ウェットティッシュの作成を行い、各事業において啓発活動を行うことができた。	啓発用品を配布する機会を増やす必要がある。	社会教育課
		○県・西部地区・運動団体等が開催する研修会等への参加	計画通り参加	計画通り参加	5		計画通り参加できた。	参加者について偏りが見られるため、リーダーとなる職員の育成が課題である。	社会教育課
		○人権への意識を高める学習機会の提供	学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	13事業	3.4		3.4	実施した場合2点、関係機関等の専門性を活かした事業が実施できた場合1点、参加者が定員の70%を超えた場合1点、参加者の80%以上の人が満足と答えた場合1点の合計5点満点(左記点数は全館の平均点)。	人権教育事業の推進を図るため、実施体制の見直しを行い、地区公民館13館を9地区に分け事業を実施する体制を構築し、事業を実施したが、参加人数、事業の満足度に結びついていない。実施内容の工夫や関係課との連携強化が必要である。

第1項 人権の尊重と権利の擁護

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2) 平和施策の推進	① 平和意識の高揚	○戦争体験者等による「平和を願う講演会」を実施(全中学校を対象)	全中学校(11校)	—	—	4.5	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○「平和ポスターコンクール」への積極的応募・出品(全小・中学校を対象)	コロナの関係により、可能な範囲で小中学校へ協力を依頼	116点の応募	5		学校の協力により、昨年度より多くの応募があった(令和元年度は合計72点)。	事業を継続し、取組内容の充実を図る。	学校教育課
		○戦後75周年に向けた平和教育の推進	平和を考える講演会、平和ポスターをアリットに展示	計画通り参加	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小して実施した。	—	学校教育課

政策2 生涯学習
第1項 生涯学習の推進

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1) 学習環境の充実	①学習情報の提供 ②学習機会の充実	○生涯学習情報紙「かがやく」の発行	年2回発行	1回発行	4	4.3	新型コロナウイルス感染症の影響により、上半期は取材先であるサークル等の活動が行われず発行を見合わせた。その後、サークル活動等が再開され、職員で取材、編集を行い、4月1日号は予定通り発行し、広報いるまと同時配布し、広く市民に供することができた。	ボランティア編集委員から、無償ボランティアが負担であり継続が困難である旨の申し出を受け、編集委員会を解散せざるを得なくなり、委員のなり手不足が深刻である。編集委員の在り方(負担)を再考し、新規委員の募集を行いながら、職員による取材、編集を併用し、今後も休刊することなく発行し市民への情報提供に努める。	社会教育課
		○インターネット等を活用した学習情報の提供	市公式ホームページに加え、生涯学習をすすめる市民の会HPで様々な生涯学習情報を提供する	計画通り実施	5		ホームページの情報に関しては、頻繁な更新を心掛け、新しい情報の提供ができた。	「いるま学びの場」(生涯学習サークル・教室情報一覧)のホームページ掲載については、分野別に分け、こまめな更新を心掛けていく。	社会教育課
		○「生涯学習茶の都出前講座」の充実	年間40回以上の実施	12回実施	4		新型コロナウイルス感染症の影響により、例年に比べ申込みが減少したものの、入間市の歴史や地理、危機管理に関する講座の申し込みはあった。緊急事態宣言下は施設等の使用ができなくなるなど、やむを得ず中止した講座もあったが、できる限りの講座開催となった。	WEB上での広報に努めるとともに、受講講座の偏りが無くなるような掲載の工夫を工夫する。	社会教育課
		○「生涯学習ガイドブック」「いるま学びの場」の発行	生涯学習ガイドブック(上・下半期)、いるま学びの場(8月発行)	生涯学習ガイドブック(下半期)、いるま学びの場(11月)発行	4		新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントや事業の実施について不透明であったため生涯学習ガイドブック上半期編の発行を見送った。学びの場については、民間カルチャースクールの情報も掲載することとし、掲載ジャンルの拡充を図ることができた。	市民が利用しやすくなるよう改善に努める。	社会教育課
(2) 学習活動の充実	①市民の学び合いの促進 ②団体間の連携の促進	○市民活動団体への活動支援	生涯学習をすすめる市民の会が企画・執行する生涯学習関連施策への協働	計画通り実施	5	4.5	まちの先生事業や生涯学習いじばんの整備、定例会・部会への出席など、生涯学習施策を連携して行った。	生涯学習をすすめる市民の会の運営基盤の整備を行っていく必要がある(幅広い年齢層の会員拡充など)。	社会教育課
		○市民団体、大学等との連携事業の実施	生涯学習フェスティバルの開催、子ども大学の実施	生涯学習フェスティバル特別企画の実施。子ども大学・子ども音楽大学は中止。	4		生涯学習フェスティバルは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来場者を限定して、これまでのフェスティバルの歴史を振り返るフェスティバル特別企画シンポジウムを開催し、併せてインターネットでのライブ配信も行った。また、子ども大学さやま・いるまと子ども音楽大学いるまは、新型コロナウイルス感染症の影響により各大学に協力いただくことが難しく中止となった。	子ども大学さやま・いるまに関しては、実施主体となる3団体の日程調整が難しい面もあるため、実施日数などについては検討していく必要がある。	社会教育課

第1項 生涯学習の推進

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2) 学習活動の充実	①市民の学び合いの促進 ②団体間の連携の促進	○地域住民が自ら企画運営する事業の支援	学んだことを地域に生かす事業を実施する	3事業	1.6	1.6	左記の各事業を実施した場合各1点、2事業で参加者の80%以上の人が満足と答えた場合各1点の5点満点(全館の平均点)。	個々の活動や発表の場として公民館以外で活動する団体が増えてきており、他団体とのつながりや地域交流、地域還元に対する意識が希薄化している。地域の伝統文化を守り、次の世代へ継承していくため、人材を発掘、育成していくことが必要である。コロナ禍において、計画していた様々な事業が、年間を通して実施できなかったため、新たな事業展開を検討する必要がある。	公民館
		○世代間交流事業、地域交流事業の実施		8事業					公民館
		○地域の伝統文化を守り育む事業の実施		2事業					公民館
(3) 学習成果の活用	①学びを活用する機会の充実 ②学習機会の充実	○文芸入間の発刊	年1回の発行	3月1日に第43号を発行	5	4.7	編集委員8人の協力により、計画通り第43号を発行することができた。	投稿者の高齢化及び減少の問題があり、新たな投稿者拡充に力を入れる必要がある。	社会教育課
		○生涯学習フェスティバルの開催	第26回いるま生涯学習フェスティバルを開催	11月29日に代替え事業の生涯学習フェスティバル特別企画を実施	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集客しない事業形態を模索した結果、「いるま生涯学習フェスティバル25回の歩み」の成果を共有し、これからのフェスティバルの在り方を考える場として、来場者を限定してのシンポジウムを開催した。新しい試みとして、来場できない市民も視聴できるインターネットでのライブ配信も実施し、概ね好評を得た。	今回実施したインターネットでのライブ配信を今後も活用するなどし、事業がマンネリ化しないよう、新たな企画立案を図る。	社会教育課
		○まちの先生講座の開催	「まちの先生」を活用した講座の開催	10月初旬から、3月末の約6か月にわたり、22講座を開催	5		延べ人数324人が受講した。参加者の約97%が「満足」という結果になった。	今後は、外出が困難な方でも参加できるようにオンライン講座を増やしていくため、講師側・受講生側ともに情報機器の操作知識向上を目指した研修や講座を実施していく。	社会教育課
		○美術、音楽、演劇、その他芸術の発表会等の開催	学んだことを地域に生かす事業を実施する	9事業	1.7	1.7	左記の事業のうち発表会等を開催した場合2点、その他の事業を実施した場合は各1点の5点満点(全館の平均点)。	地域で活動するボランティアの発掘や公民館事業を通して、新たにボランティアを、育成していくことが必要である。コロナ禍において、計画していた様々な事業が実施できなかった。新たな事業展開を検討する必要がある。	公民館
		○地域住民を講師やボランティアに招いた事業の実施		9事業					公民館
		○ボランティア養成事業の実施		0事業					公民館
		○各種団体、サークルの地域還元活動を促進する事業の実施		1事業					公民館

政策3 幼児・学校教育

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実	○新学習指導要領に対応する教材・教具、学校管理備品等の計画的な整備	教材・教具、学校管理備品等を計画的に整備する	計画通り実施	5	4.7	各学校の要望に応じて予算の範囲内で教材備品を計画的に整備し、児童生徒の学習全般に活用することができた。また、老朽化した児童・生徒用机・椅子の入替えを行うことができた。	財政状況は厳しいものの、教育環境に支障をきたすことがないよう、計画的な備品の更新に努める。	教育総務課
		○学校図書館図書等の計画的更新	文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率100%	小学校 91.02 % 中学校 81.70 %	4		文部科学省学校図書館図書標準による学校図書館蔵書充足率100%を目標とした結果、令和3年3月末の充足率平均は小学校で91.02%、中学校で81.70%となった。	財政状況は厳しいものの、引き続き学校図書館蔵書充足率100%を目指す。	教育総務課
		○GIGAスクール構想の実現に向けた、ICT機器及びICT環境の計画的な整備	ICT機器及びICT環境を計画的に整備する	計画通り整備	5		GIGAスクール構想の実現に向け、児童生徒1人1台のタブレット端末を、令和2年度中に導入することができた。ICT環境を整備したことにより、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを実現することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	教育総務課
	②生徒指導・教育相談の充実	○小中一貫教育を通しての学力向上及び生徒指導の充実	27校で実施	27校で実施	4	4.3	各中学校区で限られた中で合同研修や、乗り入れ授業等を通して、学校種間の指導方法を学び合うことができた。また、生徒指導、教育相談に関する情報交換を密に行うことで、児童生徒理解を深めることができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	③子ども未来室事業の推進	○学校力を高める人事評価制度の推進	全教職員で実施	全教職員で実施	5		人事評価制度を通して教職員の力量を高め、教職員個々の強みや得意分野を更に伸ばさせるとともに、総合的な力量を高めることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	④教材・図書等の充実	○学校評価の充実と積極的な広報	27校で実施	27校で実施	5		全校で自己評価及び関係者評価を実施し、学校だよりなどで公表することができた。その結果を教育活動に活用している。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	⑤子育て家庭への経済的支援	○学校評議員制度の充実	27校で実施	27校で実施	4		コロナ禍により実施できない学期もあったが、「新しい生活様式」など学校の取組を理解してもらえた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	⑥児童生徒と向き合う時間の確保(教職員の働き方)	○委嘱研究の奨励と学校支援の充実	27校で実施	27校で実施	5		委嘱校においては、着実な研究を進め、学校テーマに即した研究発表(紙上での発表)を実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○校長会議、教頭会議の定期・臨時の開催及びその充実	校長会議12回 教頭会議4回実施	校長会議12回 教頭会議4回実施	5		事前の資料精査・配付・効果的な説明を心掛け、短時間で充実した会議運営を図ることができた。タブレットの使用方法的研修も実施した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○家庭・地域との連携・協働を通じた学校づくりの推進	27校で実施	一部実施	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら可能な限りPTA活動、青少年健全育成会との連携を指導し、地域に根ざした学校づくりを推進した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
	○ホームページや教育広報「いるま」(年2回発行)での情報発信	『教育広報「いるま」』の年2回の発行とホームページへのアップ	7月と3月に実施	5	新型コロナウイルス感染症への対応を掲載するなど、市や各校のホームページを充実させた。ホームページや教育広報を活用して、各学校の取組等を情報発信することで、保護者、市民に広く理解してもらうことができた。		事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課	
	○コミュニティFM放送、CATVと連携した広報活動の充実	FM茶室や入間ケーブルテレビ、各学校と連携して実施	計画通り実施	4	新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、学校の話やトピック情報を広く市民に広報することができた。		事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課	

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実 ②生徒指導・教育相談の充実 ③子ども未来室事業の推進 ④教材・図書等の充実 ⑤子育て家庭への経済的支援 ⑥児童生徒と向き合う時間の確保(教職員の働き方)	○教職員の不祥事防止のための研修の充実	27校で実施	27校で実施	4	(4.3)	全校で実施し、チェックリストによる確認、事例研修やロールプレイをとおして規範意識を高めた。また、年度当初に市教委作成のリーフレットを配布した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校と地域をつなぐ、地域交流研修会の実施	11中学校区で実施	11中学校区で実施	4		新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から全体会は実施できなかったが、各中学校区では実施することができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○コミュニティスクールの検討	部内で検討会議を開く	部内で検討会議を開いた	3		導入に向け、部内で会議を開くことができたが、緊急事態宣言により先進校視察はできなかった。	導入に向け、準備を進める。	学校教育課
		○各校の実態に即した生徒指導体制の確立とその支援	毎学期の生徒指導訪問と、生徒指導主任研究協議会時に確認	2・3学期実施	4		4・5月は臨時休校だったため、1学期は実施できなかったが、生徒指導訪問及び生徒指導主任研究協議会時に、報告・連絡・相談体制が確立されているかを確認し、指導した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○全校各学期1回の生徒指導訪問による実態把握と学校への支援	小学校16校×3回 中学校11校×3回	小学校16校×2回 中学校11校×2回	4		4・5月は臨時休校だったため、1学期は実施できなかったが、生徒指導に関する訪問を通して、各校の課題を把握するとともに、児童生徒への支援方法について指導助言を行った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「いじめ防止基本方針」に基づく取り組みの推進	いじめ問題調査審議会：年1回 いじめ問題対策連絡協議会：年2回	いじめ問題調査審議会：年1回 いじめ問題対策連絡協議会：年2回	4		いじめ防止基本方針に基づき、調査審議会を1回、連絡協議会を2回実施した。その中で、本市の現状と取組について報告し、各方面から示唆をいただいた。	事業を継続し、発展させる。	学校教育課
		○学校、さわやか相談室、教育センター相談室、適応指導教室(ひばり教室)の連携による総合的な不登校対策の推進	・月7日以上の欠席者の報告：年11回 ・生徒指導訪問時による確認：各学期1回 ・スクールカウンセラーの全校配置	・月7日以上の欠席者の報告：年11回 ・生徒指導訪問時による確認：2・3学期各1回 ・スクールカウンセラーの全校配置	4		月7日以上の欠席者を各学校から報告させ、児童生徒の現状やその変化について把握した。それを基に、生徒指導訪問時で確認し、支援方法について助言を行った。	事業を継続し、発展させる。	学校教育課
		○こども支援課等の関係各課や、児童相談所、保健所及び医療機関等の関係機関と連携した不登校児童生徒への支援	要保護児童対策地域協議会 ・毎月第二火曜日	要保護児童対策地域協議会 ・毎月第二火曜日	4		こども支援課と密に連絡を取り合いながら、子どもの支援を行った。	事業を継続し、発展させる。	学校教育課
		○警察、児童相談所等及び関係諸機関等と連携した非行防止教室、情報モラル教室、薬物乱用防止教室の全校実施	全校実施	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○市長部局実施の事業(生活支援課の「アスポート事業」、こども支援課の「一人親家庭の学習支援」との積極的連携)	年4回実施	年4回実施	5		学校での様子等を情報提供するとともに、アスポートでの様子について報告を受け、児童生徒支援の一助とした。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○幼稚園、保育所(園)、認定こども園、小中学校への巡回支援とその充実	400回	400回未満	4	新型コロナウイルス感染症の関係でスタートは遅れたが、1回の訪問で複数の教員を指導するなど、指導の質は落とさず実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)学校教育体制及び学習環境の充実	①学校経営の充実 ②生徒指導・教育相談の充実 ③子ども未来室事業の推進 ④教材・図書等の充実 ⑤子育て家庭への経済的支援 ⑥児童生徒と向き合う時間の確保(教職員の働き方)	○幼児の通級指導教室「茶おちゃお教室」、小中学校の通級指導教室の充実	小中学校巡回支援の実施 茶おちゃおは、作業療法士による支援実施	小中学校巡回支援の実施 茶おちゃおは、作業療法士による支援実施	4	(4.3)	茶おちゃおへは、スーパーバイザー巡回支援や心理士の巡回支援でつながった幼児もいる。今年度、通級巡回は新型コロナウイルス感染症の関係で2学期からとなったが、先生方の指導方法を改善するよい機会となった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「遊びと学びの手引き(本編)」及び「遊びと学びの手引き(安全編)」の活用促進	4月に研修会実施	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会が中止となった。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○保・幼・小・中・高の交流、連携の推進	・保幼小中連絡会、小中連絡会の全校実施 ・中高特連絡会の実施	一部実施、一部休止	4		コロナ禍により、集合型の連絡会は規模を縮小するなど工夫し実施。中高特連絡会は、市外の近隣の学校も参加し、充実した会になっている。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○特別支援学校との連携の推進(入間わかさ高等特別支援学校、狭山特別支援学校、日高特別支援学校等)	各学校の実態に応じて実施	一部実施、一部休止 支援籍学習については学校ごとの判断	4		支援籍学習や支援学校のコーディネーターの派遣、学校見学等を行い、連携を図った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○親の学習講座・支援講座の充実	親の学習講座:約80回 親支援講座:年2回	親の学習講座:0回 親支援講座:年4回	-		親の学習講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により実施することができなかった。 親支援講座は児童発達支援センターと共催し多くの保護者の方に参加していただけたよう、対象者を広げて実施した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「育ちの記録シート」の活用促進	1歳6ヶ月検診にて配布	1歳6ヶ月検診にて配布	4		就学時健診での配布を1歳6ヶ月健診に改めたことで、育ちの記録シートの活用を、より早い段階から実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○巡回支援、研修会を通しての保育士・教師等への支援の充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回 ・巡回支援の実施	・本年度休止 ・400回未満	4		研修会や巡回支援を通して、保育士や教師が子どもや保護者に対しての支援の仕方を向上させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○就学援助制度による学校諸経費、学用品費、給食費、校外活動・修学旅行費等の支援充実	申請に基づき、審査のうえ実施	計画通り実施	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小・中学校入学時の学用品費の入学前支給	12月と3月に実施	12月と3月に実施	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○新入生保護者会の活用や市長部局(子ども支援部、生活支援課)との連携による就学援助制度の確実な周知	16校及び各課と連携して実施	16校及び各課と連携して実施	5		計画通り実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○働き方改革基本方針に基づく働き方改革の推進	27校で実施	27校で実施	4	4月に「学校における働き方改革基本方針」を策定した。 7月より、働き方改革推進委員会を実施し、令和3年度より学校日誌の電子化に取り組むことに決まった。また、留守番電を9月より導入した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			
○「事務の共同実施」モデル事業の実施	市内半数13校で実施	13校で実施	4	令和3年度の本格実施に向け、13校で試行を行った。 本格実施に向け、「入間市立小中学校事務共同実施要領」を制定することができた。	令和3年度より本格実施する。	学校教育課			
○留守番機能付電話の設置と活用	27校で実施	27校で実施	5	計画通り留守番電話を9月より導入できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進 ⑤新学習指導要領への対応	○「学び合い」「教え合い」等、主体的・対話的で深い学びの視点をいかした授業づくりの充実(学びのスタンダード1の活用)	27校で実施	27校で実施	3	4.2	指導訪問を活用して教職員の指導力の向上を図ることができた。コロナ禍であったが、学び合いの学習を工夫して実施した。	委嘱研究、指導訪問を活用して、さらに指導力の向上を図る。	学校教育課
		○学校指導訪問や授業研究を通じた教職員の指導力の向上(授業分析12の視点の活用)	13校で実施	13校で実施	5		コロナ禍であったが、規模を縮小して実施した。授業分析12の視点を活用し、マンツーマンでの研究協議を全訪問で実施し、協議内容を深めることができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小中一貫教育を通じた学習規律の共通化と指導力の向上	27校で実施	27校で実施	4		コロナ禍で集合型の研修会は実施できなかったが、学習規律の共通化の取組は各中学校区で実施した。	事業を継続し、内容の見直しを図りながら継続をしていく。	学校教育課
		○ユニバーサルデザインの視点をいかした授業づくりの充実	27校で実施	27校で実施	5		学校指導訪問や研修会等でユニバーサルデザインの視点を生かした授業を学んだ。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○教科指導員の小・中学校への配置や少人数指導や通級指導等による個に応じた教育の推進	27校で実施	27校で実施	5		県の少人数指導加配や教科指導員を活用し、少人数指導やチームティーチングを推進することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○英語指導助手(AET)の小・中学校配置による外国語教育の充実	27校で実施	27校で実施	3		外国語教育を全校で実施したが、13名のAETが複数校を兼任し、27校分の指導を行っているため、AETの増員と外国語教育の指導力向上が求められる。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○家庭学習の充実(学びのスタンダード2の活用)	27校で実施	27校で実施	4		学力向上スタンダード(話し合い)を全教員に配布し、家庭学習の充実に取り組んだ。	小中一貫教育の取組を生かし、さらに家庭学習を充実させる。	学校教育課
		○プログラミング教育やタブレット等を活用したICT教育の充実	27校で実施	27校で実施	5		国のGIGAスクール構想を受けて、入間市全児童生徒にタブレット端末を導入し、研修会を実施した。	環境整備を図るとともに、教職員研修を実施する。	学校教育課
		○体系的な教職員研修計画の立案と確実な実施	26本実施	9本実施	3		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止、または規模を縮小しての取組となった。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○学校教育の向上・研究を目指した各種委員会の設置(不登校対策研究委員会、社会科副読本編集委員会、小学校外国語研究委員会、学力向上推進委員会、体力向上推進委員会、人権教育推進委員会、教育広報編集委員会、入間市就学支援委員会、入間市教育センター運営委員会、入間市博物館・学校連携事業研究委員会)	27校から委員を選出し、成果の波及を目指す。	27校から委員を選出できた。	5		全校の教職員の協力を得て、事業を進めることができた。	変化に応じた委員会の業務の見直しを実施する。	学校教育課
○経験、ライフステージに応じた研修の充実	26本実施	9本実施	3	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止、または規模を縮小しての取組となった。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課			
○小中一貫教育のベースとなる小5担任育成に特化した研修の実施	小5担任育成研修会実施	計画通り実施	5	目的と計画に則って実施することにより、小中一貫教育のベースとなる小5担任育成に資することができた。	事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進 ⑤新学習指導要領への対応	○スクールリーダー及びミドルリーダーの育成を目指した研修の充実	スクールリーダーおよびミドルリーダーの研修会の実施	ミドルリーダー研修会のみ実施	4	(4.2)	教育活動における取り組みの見直しや情報の共有を行うことで、ミドルリーダーを育成することができた。スクールリーダー研修会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○指導主事の担当制による初任教員に寄り添った丁寧な育成の実施	27校実施	27校実施	5		授業参観と指導を、計画的に実施し、初任者の育成や情報を共有することができた。	事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○拠点校指導教員との連携	年1回実施	紙面交流	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初任者の状況について紙面での交流を行った。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、研修内容を充実・精選する。	学校教育課
		○臨時的任用教員の服務規律の確保とスキルアップを目指した研修の充実	経験1年以内は訪問、2年以内は年1回の研修会を開催	机上研修	4		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から机上研修とした。服務関係を中心に、教員としての自覚を身に付けさせる研修とすることができた。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○新学習指導要領に対応するための研修の充実	道徳研修会、プログラミング教育研修会実施	27校で実施	5		道徳やプログラミング学習など、新学習指導要領にそった研修を充実させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○学校の全教育活動を通じた道徳教育及び人権教育の充実	全27校全体計画の作成	27校で実施	5		各学校で工夫を凝らして、道徳教育及び人権教育の充実に尽力した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○体験活動、地域人材、地域教材を生かした学習指導の推進	27校で実施	1部実施	3		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止または規模を縮小しての取組となった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○狭山茶とふれあう教育の推進 (小学校:茶摘み体験、手揉み茶体験 中学校:茶道(盆点前)体験)	27校で実施	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、茶摘み体験、手揉み茶体験、盆点前体験については中止とした。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○入間市博物館での学習を通じた郷土教育(歴史・文化・狭山茶)の充実	27校で実施	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小学校、中学校ともに中止となった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○外国語活動・英語教育の充実や英語指導助手(AET)とのふれあいを通してのグローバルな視点と感覚の育成	27校で実施	27校で実施	4	(外国語)活動・英語教育の授業改善を図った。学校規模に応じて、各校にAETを配置し、グローバルな視点と感覚を育成した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進 ⑤新学習指導要領への対応	○体育授業、体育的活動の量的確保と指導内容の充実	27校で実施	27校で実施	3	(4.2)	コロナ禍で実施が難しい活動もあったが、可能な範囲で量的確保を図った。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○新体力テストの結果分析を活かした指導及び体育指導の質的向上を目指した研修の実施	27校で実施	—	—		新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○体力向上を目指した教育活動の工夫改善と学校への支援の充実	27校で実施	27校で実施	3		コロナ禍で実施が難しい活動もあったが、可能な範囲で量的確保を図った。体力向上推進委員会にて広報誌を発行した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小・中学校の全学年を対象とした交通安全教室の実施	27校で実施	—	—		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止した。各校独自で可能な範囲で交通安全のための取り組みを実施した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しつつ可能な学校での実施を目指す。	学校教育課
		○自転車運転免許の取得(小学校4年)と自転車運転免許更新(中学校1年)の実施	27校で実施	—	—		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止した。各校独自で可能な範囲で交通安全のための取り組みを実施した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しつつ可能な学校での実施を目指す。	学校教育課
		○危険回避能力を育てる避難訓練の実施と防災訓練への参加促進	27校で実施	27校で実施	3		全校で避難訓練を実施することができたが、入間市の防災訓練はコロナ禍で中止となった。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○ヘルメットの着用の推進	27校で実施	27校で実施	4		着用の推進を図ることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○栄養教諭等の活用による「食に関する指導」の推進	5校で実施	5校で実施	4		各校ごとに「食に関する指導」を実施できた。また保護者向けの講義や給食だよりの発行など地域に向けた活動もできた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「入間市学校食物アレルギー対応マニュアル」に基づいた対応の実施	27校で実施	27校で実施	5		全校で統一した対応ができた。国・県のマニュアル改訂に伴い早急に対応すべき部分については協議の上、対応できた。	国、県の改訂を踏まえ、市のマニュアルについて見直し、改訂作業をすすめていく。	学校教育課
		○国民運動「早寝、早起き、朝ごはん」の推奨	保健指導を中心に養護教諭と連携し、全27校で実施	計画通り実施	5		計画どおり実施することができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○地場産の農産物等の学校教育への活用	27校で実施	27校で実施	5		ふるさと学校給食月間を利用し、地場産野菜について児童生徒に知ってもらうことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○「学び合い」「教え合い」等主体的・対話的で深い学びの視点をいかした授業づくりの充実(学びのスタンダード1の活用)	27校で実施	27校で実施	4		新学習指導要領の全面实施に向けて、主体的対話的で深い学びの実践に取り組むことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○英語指導助手(AET)の小・中学校配置によるが国語教育の充実	27校で実施	27校で実施	4		特に小学校においては外国語の教科化にとまない、一層AETの役割が大きくなったが、全校に配置したことで充実した授業を実施できた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
○プログラミング教育やタブレット等を活用したICT教育の充実	全3回の実施	計画通り実施	4	一人一台タブレットが導入されるにあたり、各学校の代表者が参加し、利活用方法を研修することができた。	学習の目的に応じた利活用ができるように内容の充実を図っていく。	学校教育課			

第1項 学校教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)学校教育内容の充実	①学力向上策の充実 ②教職員研修の充実 ③豊かな心を育む教育の推進 ④健康・安全教育及び食育の推進 ⑤新学習指導要領への対応	○旬の食材の使用や毎月1回の行事食の提供等を通じて、食文化への理解を促す。また、健康な体を育むためや、食の大切さを児童生徒・保護者へ伝えるために、手作り給食を提供する。	毎月実施	毎月実施 (4~6月 除く)	4	3.8	国内産の食材を使用した季節感のある給食の提供が出来た。これらについて、献立表や給食だより等での周知を図った。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、4~6月は行事食を提供できなかった。	児童生徒の知的好奇心を刺激し、学び、知ることが心を豊かにし、生きる喜びにつながることを実感できる給食の提供のため、献立立案会議や学校給食打合せ等により、引き続き取り組んでいく。	学校給食課
		○安全な給食食材の確保をするため各種検査を実施 目標実施回数 (1)食中毒菌検査 年2回 (2)食品理化学検査 年2回 (3)給食1食分全体の放射性物質測定の実施(全体検査 年17検体)	計画通り	(1)年1回 (2)年1回 (3)測定実施せず	3		食中毒等の事故を起こすことも無く、安全安心でおいしい給食の提供ができた。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休業期間中の検査が未実施となった。放射性物質測定は事業の見直しを行い実施を見送った。	今後も、衛生管理の徹底が必要である。	学校給食課
		○調理場のドライ運用の徹底及び推進	100%	56%	3		調理場がドライシステムになっていないため、ドライ運用に準じた方法で作業を行っている。	給食施設の改修等に伴ってドライシステムに変更したいが、市の計画との整合性から、なかなか計画が進展しない。	学校給食課
		○給食の安全を確保するため、調理員等への各種研修を実施 目標実施回数 (1)衛生研修 年1回 (2)食育研修 年1回 (3)衛生講習会への参加 年1回	計画通り	実施せず	—		新型コロナウイルス感染症拡大により人を集めての研修の実施が困難となったため。	衛生研修と食育研修については講義以外の代替方法としてDVD視聴や調理場ごとの課題解決等を検討。衛生講習会は県で実施する方向のため参加していく。	学校給食課
		○衛生管理基準に基づく保菌検査等を実施 (1)保菌検査 月2回 (2)ノロウイルス定期一斉検査 年1回	計画通り	計画通り実施	5		食中毒等の事故を起こすことなく、安全、安心でおいしい給食の提供ができた。	今後も、衛生管理の徹底が必要である。	学校給食課

第2項 子ども・子育て支援の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)幼児教育の環境整備	①子ども未来室事業の推進 ②幼児の通級指導を通じた支援 ③保護者への情報提供と支援 ④保・幼・小・中連携のための接続研修会の実施	○幼稚園、保育所(園)、認定こども園、小中学校への巡回支援とその充実	400回	160回程度	3	4.3	コロナ禍により、回数は目標に達することはできなかったが、1度の訪問で、スクールソーシャルワーカーや指導主事などから複数の教員の指導を行うなど方法を工夫し、指導助言を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○巡回支援、研修会を通しての保育士・教師等への支援の充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回 ・巡回支援の実施	・0回 ・200回程度	3		コロナ禍により研修会は実施できなかったが、指導主事、臨床心理士などの巡回支援を通して、保育士や教師に対する指導の方法について助言することで、支援の在り方について向上させることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○親の不安軽減を目指した支援の充実	茶おちゃお保護者講演会の実施4回(臨床心理士・作業療法士による)	4回実施	5		茶おちゃおに通う保護者に講演会を行うことで、保護者の不安の解消や子どもへの具体的な支援の仕方について理解を深めることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○市長部局(こども支援課、保育幼稚園課、児童発達支援センター、健康福祉センター)との連携の充実	子どもの発達に係る連携会議5回	5回実施	5		4月に児童発達センターが開設され、連携が進んだ。 親の学習講座の参加者が増加した。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○コミュニケーション能力や感情のコントロール、集団生活での適応能力や自己肯定感の醸成を目指した幼児の通級指導「茶おちゃお教室」の充実	2週間に1度ずつ、後半はグループの人数を増やして実施	計画通り実施	5		小学校への入学に向け、2・3人のグループから5・6人のグループでの指導へと人数を増やすことで、集団生活に向け準備を行うことができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○小学校との連携を通じた指導体制の整備と充実	遊びと学びの手引きの活用100%	100%活用	5		「遊びと学びの手引き」を活用することで、幼保から小への接続がスムーズに行うことができる体制を整えることができた。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○幼稚園、保育所(園)、認定こども園にて親の不安軽減を目指した「親の学習講座」の実施	36園・所のうち半分まで実施	-	-		参加型・コミュニケーションを非常に大切にする講座ということや施設側の都合があるためコロナ禍での実施が難しかった。	多くの園・所で行えるよう広めていく。 新たな講師を迎え、新しい生活様式に合わせた開催を工夫していく。	学校教育課
		○子育てに関するノウハウなどの情報提供と親に寄り添った支援の充実	特別支援学級と通級保護者対象に年3回 ずつの研修会の実施	特別支援学級と通級保護者対象に年2回 ずつの研修会の実施	4		コロナ禍ではあったが、専門性の高い講師の招聘、人間わかくさ高等特別支援学校の見学等、充実した講座ができた。	保護者のニーズに応じた講座を実施する。	学校教育課
		○校長会議、教頭会議の定期・臨時の開催及びその充実	・保幼小中連携研修会の実施 2回	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会が中止となった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課
		○異校種間のなめらかな接続を目指して、スキル獲得に特化した研修会の充実	・遊びと学びの手引き研修会 1回 ・保幼小中連携研修会の実施 2回	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修会が中止となった。	事業を継続し、内容の充実を図る。	学校教育課

第3項 学校施設の整備

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1) 学校施設の充実・最適化	①校舎・屋内運動場の整備	○小中学校施設における維持管理	81業務	109業務	5	4.9	各施設の維持管理、設備の保守点検は、新型コロナウイルス感染症予防対策に関連し、一部の業務内容を精査し、学校運営への影響を最小限に留めるなど、柔軟な対応を行った。また、各学校で課題となっている樹木についても、例年と比較し大幅な改善を行った。	施設の老朽化が進んでおり、修繕をしても、新たに指摘が出る状況に変わりはないが、徐々に指摘事項が減少傾向に転じており、限られた財源ではあるが、指摘事項の一覧を基に引き続き改善していく必要がある。	教育総務課
		○小学校施設における整備事業の計画的な推進 (1)豊岡小学校外1校校舎外壁等改修工事実施設計業務委託 (2)扇小学校校舎便所改修工事実施設計業務委託 (3)豊岡小学校給水設備改修工事 (4)黒須小学校外1校屋内運動場共用便所改修等工事 (5)狭山小学校高圧気中負荷開閉器等改修工事 (6)藤沢東小学校給食調理室天井塗装改修工事 (7)障がいのある児童等に係る施設改修工事 (8)合理的配慮の提供に係る改修工事 (9)バリアフリー化・障がい対応改修工事	25事業	22事業	4.5		新型コロナウイルス感染症拡大防止の一環として、プール指導が中止となったため、西武小学校プールろ過装置改修工事を令和3年度に実施することとした。また、豊岡小学校給水管改修工事については、計画どおり工事契約(落札者なし)を行うことができず、令和3年3月契約となったため、令和3年度に繰越しとなった。 このほか、改修工事及び業務委託は予定どおり実施することができ、落雷による災害など、不測の事態にも柔軟に対応できた。 なお、小学校については、事業実績(数値実績)が減少をしているが、障がい児への対応のため、事業集約を行い執行したことが要因となっている。	老朽化に起因した不測の事態が生じたり、近年は天候不順による災害など、不測の事態となるケースがあるため、関係各課との連携を強化している。市及び市民の防災への意識が向上しており、災害時の避難所となる屋内運動場の雨漏りや男女別トイレ、多目的トイレの改修なども計画的に進め、校舎のトイレ改修など時代に適した施設整備を進めていく必要がある。 また、令和3年度から35人学級編制が開始されることや、バリアフリー法の改正により、これまでの学校施設整備に加え、新たな課題もあるため、公共施設マネジメント事業計画や、教育委員会の『入間市立小・中学校の適正化に関する基本方針』に基づき、統廃合や大規模改修、長寿命化、改築工事等を計画的に進めていかなければならない。	教育総務課
		○中学校施設における整備事業の計画的な推進 (1)藤沢中学校校舎便所改修工事実施設計業務委託 (2)東町中学校下水道本管接続工事 (3)藤沢中学校管理・特別教室棟天井改修工事 (4)障がいのある生徒等に係る施設改修工事 (5)合理的配慮の提供に係る改修工事 (6)バリアフリー化・障がい対応改修工事	11事業	13事業	5				教育総務課
		○学校施設の計画的な石綿含有煙突用断熱材除去改修の実施 (1)小学校石綿含有煙突用断熱材除去改修工事 (2)中学校石綿含有煙突用断熱材除去改修工事	8事業	8事業	5			工事及び工事監理業務委託は、計画通り実施できた。	令和2年度をもって本事業は終了した。
(2) 学校給食施設・設備の充実	①学校給食センター施設・設備の整備 ②自校給食施設・設備の整備	○学校給食センター施設・設備の充実 (1)既設調理機器(受配校の牛乳保冷库、配膳台など)の更新 (2)学校給食センター更新に係る基本構想及び基本計画の策定	計画通り	計画通り実施	5	5.0	センター更新を見据えた保守及び修繕により施設の運営管理に努めた。また、学校給食センターの更新について、関係課との協議を進めた。	学校給食センターの更新を見据えて、今後は最低限の入れ替えにとどめ、保守及び修繕により、老朽化した調理機器を使用することになる。	学校給食課
		○自校給食施設・設備の整備 (1)既設調理機器(ガス給湯器、牛乳保冷库、ガス回転釜など)の更新 (2)アルミ製食器からポリエチレンナフタレート製食器(ペン食器)への入れ替えを1校(扇小学校)実施	計画通り	計画通り実施	5		老朽化した調理機器の計画的な入れ替え等、効率的な施設の運営管理に努めた。また、ポリエチレンナフタレート製食器に入れ替えたことにより、児童の配膳負担等が軽減された。全ての小学校がポリエチレンナフタレート製食器に入れ替が完了した。	今後も老朽化した調理機器の最低限の入れ替えが必要。	学校給食課

政策4 社会教育
第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○現代的・社会的課題に対応した社会教育事業の充実を図り、仲間づくりや市民の主体的な学習活動を促進します。	小学生夏休み体験一覧表の作成	-	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントや事業の実施が不透明であったことと、小・中学校の夏休み短縮の影響もあり、発行について見送った。	掲載事業の拡充を図り、事業への参加者の増加を目指す。	社会教育課
		○お茶と地域を総合的に学び、体験する「アリットお茶大学」の開催(受講者数目標800人)	受講者延べ800人	74人(大人のみ) 実施3講座 中止11講座	4	4.4	新型コロナウイルス感染症の影響で多くの講座が中止となったが、実施できた講座については、受講者の満足度は高かった。	継続して魅力ある講座を実施していく。	博物館
		○地域の歴史・文化やお茶に関する資料の収集・整理、データベース化の実施	3,000件	1,005件	4		数字で見ると少ないが、今年度についてはシステムの移行期であり、入力停止期間や在宅勤務で資料を扱えない時期もあったことを考慮した。	データ化に携わる人材、時間、予算確保に努めていく。	博物館
		○地場産業の狭山茶、織物等と結びついた講座等の事業を各1事業実施	各1計2事業	中止3事業	-		新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となった。	講座に関わる人材の育成を行っていく。	博物館
		○市民に身近な博物館としての工夫した展示事業や出前講座を延べ30回実施	延べ30回	14回(中止6回)	4		新型コロナウイルス感染症の影響で依頼が減少し、依頼があったものについても中止された回があった。受講生からは好評を得た。	コロナ禍での講座をどのような形で提供していくかが課題である。また、特定の団体からの出前依頼が集中する傾向がある。	博物館
		○指定管理者による自主事業の実施	展示2回 イベント5種類	展示1回(中止1回) イベント12種類17回 (中止26回)	4		柔軟な発想により新規のイベントを実施することで、普段博物館に足を運ばない層の来場者呼び起こすことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症予防のため、延べ4か月半の臨時休館を余儀なくされ、多くの事業を中止せざるを得なかった。	引き続き来館者ニーズを捉えたイベントを実施していく。	博物館
		○これまで調査研究してきた成果や関連資料について紹介するアリットフェスタ特別展「(仮)思い出の元狭山村」の開催	4,000人	中止	4		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため展示は中止。ただし、開催に向けて行った調査研究の成果は図録として刊行し好評を得た。	図録の高評価および売り上げから類推すると、特別展が開催できた場合には相当の来場者が見込めたと思われ、非常に残念である。	博物館
		○エントランス展示の実施	7回	6回	4		新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館が多い中ではあったが、おおむね計画通りに実施することができた。	回数にこだわらず、指定管理者と共にエントランス展示の充実を図る。	博物館
		○博物館運営の自己評価及び博物館協議会による外部評価と市民への公表	外部評価実施と市民への公表	外部評価、公表予定	5		計画通りに実施することができた。	継続して実施していく。	博物館
		○常設展示の資料特別公開・テーマ展示の実施	2回	4回	5		毎年季節ごとに実施している茶道関係の展示替えのほか、臨時休館の期間を利用して、常設展示室の狭山茶関係の展示コーナーを大幅に拡充する大規模な展示替えを実施した。	今後も継続して実施していく。	博物館
		○ホームページの即時的な更新による新鮮で充実した情報提供(ホームページ閲覧目標33万回)	閲覧延べ33万回	217,596(旧サイト)	5		秋に博物館情報システムリニューアルがあったため、移行期に更新が停止した期間もあった。	今後も継続して実施していく。	博物館
		○市報「アリット広場」掲載、地元公民館報へ博物館情報を提供	12回	12回	5		予定通り掲載された。	今後も継続して実施していく。	博物館
○コミュニティFM放送、CATV、新聞各社等へ博物館情報を提供	20回	20回以上	5	計画通りに実施することができた。	今後も継続して実施していく。		博物館		

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○指定管理者によるリニューアル版「ニュース・アリット」の発行(6回)	6回	4回	4	(4.4)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため特別展を含む多くの事業、ボランティア活動が中止となり、また臨時休館もあったため、発行回数は4回に減じた。	新型コロナウイルス感染症の推移も見ながら今後も柔軟に対処していく。	博物館
		○鉄道・バス等への広告掲出及び市内大型商業施設でのチラシ配布、旅行情報誌への広告掲載の実施	実施	実施	4		チラシの配布等は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかったが、旅行情報誌へ記事を掲載し、施設のPRに努めた。	今後も継続して実施していく。	博物館
		○所蔵資料の更新と、資料蔵書数58万5千点を目指す ○年間貸出点数86万点を目指す	585,000点 860,000点	582,693点 480,765点	3	4.7	例年通り約5千冊の増加を見込んでいたが、図書購入費削減の影響で目標には至らなかった。 感染症拡大による臨時休館等と、利用者の外出自粛により、貸し出し点数は大幅落ち込んだ。	図書購入費の確保に努める。 感染予防の徹底により予約資料の貸出し数を維持する。	図書館
		○OCDやDVDの視聴覚資料の充実	196点	116点	3		単価の高い「ベスト2枚組」などを多く購入したことにより、購入点数は目標を下回った。	資料の価格と購入目標のバランスをみながら選定する。	図書館
		○子どもの読書推進のための児童書や、調べ学習に使える図書を2,635点購入	2,635点	2,539点	5		概ね順調に購入による受入れができた。	現状を維持する。	図書館
		○市民ニーズに応じて、健康・職業・福祉に関する図書や文学(小説)、大人向け紙芝居など5,900点購入	5,900点	5,180点	5		単価が想定を上回ったため購入数が目標に達しなかったが、幅広いジャンルで購入し受入れができた。	資料の価格と購入目標のバランスをみながら選定する。	図書館
		○各種調査研究のための参考図書175点購入	175点	263点	5		毎月、毎年発行されている定例的資料は全て購入できている。	現状を維持する。	図書館
		○視力の弱い方や高齢者の読書推進のための大活字本110点購入	110点	101点	5		出版自体が少ないため目標値には若干届かなかったが、出版されているものは全て購入できた。	現状を維持する。	図書館
		○地域情報拠点施設として、地域情報や行政情報の収集、図書館情報の発信及びホームページ等の充実	実施	実施	5		予定通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○パソコン等を利用しない方など情報弱者への、自動応答電話による情報提供の継続	実施	実施	5		予定通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○レファレンスサービス対応のため、県、地区等の研修会に積極的に参加	1回	1回	5		県の研修に参加し、県内の図書館職員とともに課題に取り組み、レファレンスに関する知識を得ることができた。	図書館協力レファレンス掲示板などを用いて県内の他館と協力し、レファレンスサービスの向上に努める。	図書館
		○視覚障害者の読書推進のため、録音資料を3点作成	3点	3点	5		利用者と電話でのコミュニケーションを重ね、全国の図書館等に所蔵の無い録音図書を作成・提供することができた。依頼は早くできたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、録音や校正をする部屋を借りることができない時期があり、作成点数は3点となってしまった。利用者の方たちには完成した資料を喜んでいただけた。	今後も利用者の方たちとコミュニケーションを重ね、要望に合ったものを作成・提供できるように努める。	図書館
		○ボランティア育成研修会を開催(年1回)	1回	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。	予算確保と計画の立案に努める。	図書館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○「おはなし会」を全館で延べ350回開催	350回	67回	-	(4.7)	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できた回数は少なかったが、おはなし会を開くときには感染対策を行い、安心して参加できるよう工夫した。常連の子どもの他、新規の参加もあり、多くの子どもたちがおはなし会を楽しんでくれた。 (本館) コロナ禍でもボランティア団体と共に感染防止対策を試行錯誤し実施した。今年度は土曜日だけの開催とし、8月中の試行1回と、令和2年10～12月中に12回行った。常連の参加者のほか乳児の新規参加もあった。 (西武分館) 令和2年4月～令和3年2月のうち通常開催した6か月で感染対策を行い、おはなし会を開催した。また、子育て支援サークル・高齢者向けサークルへの読み聞かせ支援も同様に実施した。 (金子分館) おはなし会は令和2年10月からの再開となった。感染対策のため館内の「おはなし会の部屋」が使用できず、公民館の部屋を借りての開催となった。部屋の都合で今までと同じ回数は実施できず、告知方法や感染対策などの懸念事項はあったが大勢の人が参加してくれ新たなリピーターができた。 (藤沢分館) 感染症対策に伴うイベント中止や臨時休館により、実施回数は目標回数より少なくなった。 (西武・金子・藤沢分館)</p>	今後も、より多くの子どもたちに参加してもらえよう、努めたい。 (全館)	図書館
		○運営にかかわるボランティア募集と市民参加による運営の推進	実施	実施せず	-		感染症拡大防止対策のため、計画が実行できなかった。	今後も実施に向けて検討していく。	図書館
		○利用促進事業の開催	40回	31回	4		<p>継続事業をはじめ、講座や公演形式の事業は中止を余儀なくされた。しかし季節ごとの「おたのしみ袋」や「2冊セット貸出」のような貸出に直接つながる企画が好評だった。 (西武分館) 自主事業の実施回数については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館や部分開館した4～6月、1～2月の期間中止したため、当初計画通りに開催できなかった事業もあったが、新規に企画した4件の自主事業をはじめ、開催時期等を変更して70%の事業を実施した。 (金子分館) 年間計画にあった自主事業はほとんど中止となったが、「三冊セット」「おすすめBOX」など2,000冊を超える貸出に結び付き「おてがみください」のように図書館との新たな絆を作る事業などで結果を出すことができた。 (藤沢分館)</p>	現状を維持する。	図書館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○「文学講演会」を開催	100人	-	-	(4.7)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。	継続して実施する。	図書館
		○「おたのしみ会」を開催	6回	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。	継続して実施する。	図書館
		○「図書館だより」を年4回発行	4回	4回	5		目標回数の4回発行できた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の関係でイベントのお知らせなどに大きな変更があり、1月号は発行することができなかったが、その後記事を修正して3月号として発行した。	全館分の事業案内の校正に時間がかかるが、余裕をもって取り組み、記事の内容をより充実させていきたい。	図書館
		○子ども読書推進策として「あれこれブックガイド」の配布(市内の全児童に配布)	1回	1回	5		市内の全小学校に配布することができた。	継続して実施する。	図書館
		○子ども読書推進策として「読書ラリー」の実施	300人	203人	-		新型コロナウイルス感染症の影響により、予定通りの実施ができなかった。	継続して実施する。	図書館
		○本館閲覧席開放事業を継続(本館閲覧席利用者1日15人)	15席	10席	-		緊急事態宣言により、臨時休館や部分開館となった期間があったが、令和2年7月～12月まで夜間開館を実施した。また3月の5日間は21時まで夜間開館した。ただし、利用者の外出自粛も影響してか目標値には届かなかった。	継続して実施する。	図書館
		○視聴覚ライブラリーを活用した映画会を年24回開催	24回	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。	継続して実施する。	図書館
		○図書館運営の自己評価及び図書館協議会による外部評価と市民への公表	1回	1回	5		計画通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○指定管理者との連携・協力による本館と分館に差異のないサービスの提供(モニタリングの実施)	2回	2回	5		計画通り実施できた。	現状を維持する。	図書館
		○図書館ホームページを適宜更新し、最新情報を提供	12回	12回	5		実施が遅れることはあったが、毎月1回システム担当による各ページのチェックを行い、情報の刷新を図った。	必要に応じて、チェック項目の更新を図る。	図書館
○コミュニティFM放送での図書館情報と資料紹介	50回	52回	5	計画通りの出演ができた。	現状を維持する。	図書館			
○CATVでの図書館情報と資料紹介	12回	13回	5	今年度は計3回の出演となっている。広報課から新型コロナウイルス感染症についてのお知らせを優先したいとのことで、出演枠を他の課に譲ったためである。感染症で例外的にこのような事態になってしまったが、必要なお知らせは概ねできた。 (本館) 講座・公演等が軒並み中止となり取材、出演がなかった。 (西武分館) 部分開館中も、金子分館の感染拡大防止対策や来館時注意事項等を説明することができた。 (金子分館) 「知っておいしい武蔵野うどんと日本の食文化」はTBSの取材があったが、入間CATVは出演0回だった。事業実施までに時間が無かったこともあり、積極的に関わることもできなかった。 (藤沢分館)	今後も出演回数の確保に努めたい。 (本館)。 入間CATVに取り上げていただける回数を増やせるよう、PRなどを工夫していく。 (藤沢分館)	図書館			
○「広報いるま」に図書館トピックス特集記事を掲載	1回	1回	5	特集記事で「資料宅配サービス開始」について紹介ができたため。	今後も担当以外にもアイデアを聞ききながら特集記事の内容を決めたい。	図書館			

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)社会教育環境の充実	①社会教育の機会の充実 ②資料の収集・提供の充実 ③社会教育に関する情報の提供の充実	○高齢社会に対応した学習機会の提供	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	13事業	2.6	2.7	左記事業を実施した場合2点、関係機関等の専門性を活かした事業が実施できた場合1点、参加者が定員の70%を超えた場合1点、参加者の80%以上の人が満足と答えた場合1点の5点満点(全館の平均点)。	コロナ禍において、年間を通して計画していた様々な事業が実施できなかった。新たな事業展開を検討する必要がある。また、コロナ禍における公民館だよりなど紙媒体での情報発信は、制限があり見直していく必要がある。ホームページやフェイスブックをより効果的に活用し情報発信していく必要がある。	公民館
		○健康づくりを推進する学習機会の提供		20事業	2.9				公民館
		○環境への意識を高める学習機会の提供		14事業	3.0				公民館
		○安心・安全な暮らしのための学習機会の提供		2事業	0.4				公民館
		○人権への意識を高める学習機会の提供		13事業	3.4				公民館
		○学習機会事業の提供(学習情報、地域の情報等の充実を図る)	左の事業を研究、実施、連絡会議の開催、事業の提案	0事業	2.5		公民館		
		○公民館HP、公民館だより等を活用した学習情報の提供	学習情報、地域の情報等の充実	学習情報の提供	4.2		公民館フェイスブックを月1回以上更新・公民館だよりを月1回以上発行した場合2点、地域情報を収集し、公民館だより等で発信した場合2点、図書、地域資料等を整備し提供した場合1点の5点満点(全館の平均点)。		公民館
		○地域情報(団体情報、地域のトピックス等)の収集、発信							公民館
○図書、地域資料等の整備、提供	公民館								
(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実 ②小中学生の親を支援する取り組み ③家庭・学校・地域等の連携の促進 ④団体支援の充実	○OPTA家庭教育学級の支援	小中学校27校PTAが家庭教育学級を年間4～5回開催する	6校が1回、14校が2回開催した。7校が未実施。	4	4.0	新型コロナウイルス感染症の影響により9月からの実施となったが、20校が1回～2回家庭教育学級を実施した。	新型コロナウイルス感染症拡大の中、いかに安全に実施することができるか課題となっている。また、飲食を伴う講座ができないなど、実施内容についても限られてくるため、対策が必要である。	社会教育課
		○いるまキッズアカデミーの実施	1回	—	—		実施に向けてチラシの作成等準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が発令されたためやむなく中止した。	楽しみながら学習することを目的として事業を実施しており、今後も多くの児童生徒が興味を持つようなテーマを検討する。	社会教育課
		○小中学生を対象とした「こどもお茶大学」の開催	延べ60人	—	—	4.5	新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となった。	継続して実施する。	博物館
		○市民や関係機関・関係団体との事業を実施	10事業	1事業	4		イベントや講座などの事業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、調査研究活動では専門の研究者や団体と連携し、その成果を『紀要14号』で論文掲載した。	継続して実施する。	博物館
		○博物館ボランティア会との協働による「夏休み親子で楽しむ遊びの広場」、「『むかしのくらしと道具展』関連イベント」等を実施	10事業	—	—		新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となった。	継続して実施する。	博物館
		○市民やボランティアによる「アリットお茶大学」の運営を促進	10人	—	—		新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となった。	継続して実施する。	博物館
		○子どもたちの体験を重視した「むかしのくらしと道具展」の開催	6,500人	—	5		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館になり展示は中止。ただし、すでに準備出来ていた展示を活用して動画コンテンツを制作、配信した。また、道具展のノウハウを活用した小学校への出前授業も行った。	今後も魅力ある道具展を実施していきたいが、実施形態について検討が必要。	博物館
		○展示室・茶室等を活用した学校授業の実施(市内全小中学校対象)	27校	2校	4		新型コロナウイルス感染症の影響で借上げバスでの博物館授業が中止となった。年度内の授業活用は市外を含めて5校に留まった。	今後の学校授業の受け入れ方法を検討していく。	博物館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実 ②小中学生の親を支援する取り組み ③家庭・学校・地域等の連携の促進 ④団体支援の充実	○「むかしのくらしと道具展」を活用した学校授業の実施(市内小学校16校受入)	16校	-	-	(4.5)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館になり展示は中止した。ただし、すでに準備出来ていた展示を活用して動画コンテンツを制作、配信。また、道具展のノウハウを活用した小学校への出前授業も行った。	今後の学校授業の受け入れ方法を検討していく。	博物館
		○学校への「出前授業」の実施や資料の貸出	5回	11回	5		むかしのくらしと道具展、旧黒須銀行、西洋館についての講師依頼が9校と増加した。戦争時のくらしに関する貸出資料は1セットの所有だが、時期をずらして2校の利用があった。	人数に限りがあるので、学芸員が対応する学校利用は、極力来館していただけるよう調整したい。並行して、貸出用資料セットの開発を進め、さらなる利用件数の増加につなげたい。	博物館
		○図書館見学(小学校3年生)を市内全校で実施	16校	-	-	5.0	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。(本館・西武分館・藤沢分館)	図書館見学の実施は学校の意向にもよるが、図書館を実際に見学することによって、より図書館に親しみをもってもらい、利用促進につなげていけるよう今後も努めていく。	図書館
		○図書館利用教室(小学校2年生)を市内全校で実施	16校	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。(本館・西武分館・藤沢分館)	図書館利用教室の実施は学校の意向にもよるが、利用教室を通じて、図書館に興味を持ってもらえるよう今後も努めていく。	図書館
		○子どもたちを対象とした「ブチー日図書館員」を実施	96人	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。(本館・西武分館・藤沢分館)	継続して実施する。	図書館
		○学校図書館ボランティア育成のための研修会の開催	50人	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、開催ができなかった。(本館)	中学校の学校図書館ボランティアは参加が少ないので、今後も呼びかけに努めたい。	図書館
		○移動図書館車の学校への定期的な巡回を継続	8校	8校	5		緊急事態宣言に伴い運休もあったが、移動図書館車の学校巡回にあたっては、通常どおり配車できた。	移動図書館車の配車時間が合わないことから余り利用されない学校があるため、配車時間を一部調整する。	図書館
		○市内の小学校、中学校、高校の図書担当教諭との情報交換会議を開催	1回	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、開催ができなかった。(本館)	今後とも連携を図っていきたい。	図書館
		○配本サービスによる学校等へのサービスを継続(40か所、延べ3万冊)	40箇所	57箇所	5		定期利用・不定期利用合わせて57箇所(定期・不定期で重複あり)配本を行った。	年々、徐々に周知され、利用団体も増加している。供給が滞りなく行えるよう、業務手順等の見直しを図る。	図書館
		○全庁的な子育て支援策の一つとしてブックスタート関連事業の継続	12回	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。(全館)	目標回数は12回だが、これはBCGの接種回数である。沢山の赤ちゃんと保護者に話す回数を増やすには、別の機会を模索する必要がある。今年度は感染症拡大防止のため中止になったが、今後も状況を鑑みて、できる限り実施するよう努めたい。	図書館
○庁内関係各課等との連携協力による事業(平和祈念資料展、いるま環境フェア、いるま子育てフェスティバル、ノンビリこそだてひろばまつり等)を実施	9事業	-	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、ほとんどの事業が開催できなかった。	今後も継続して実施していく。	図書館			

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(2)家庭・地域の教育力の向上	①乳幼児の親を支援する事業の充実	○「おとなのための朗読会」(1回)を各種団体との協力で開催	1回	-	-	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。 (西武分館)	今後も継続して実施していく。 (西武分館)	図書館
		○「古典朗読会」(10回)を各種団体との協力で開催	10回	-	-		新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催ができなかった。 (藤沢分館)	今後も継続して実施していく。	図書館
	②小中学生の親を支援する取り組み ③家庭・学校・地域等の連携の促進 ④団体支援の充実	○地域の力を生かした子育て支援事業の実施		15事業	2.9	2.4	左記事業を実施した場合2点、関係機関等の専門性を活かした事業が実施できた場合1点、参加者が定員の70%を超えた場合1点、参加者の80%以上の人が満足と答えた場合1点の5点満点(全館の平均点)。	現在、実施している子ども居場所づくり事業をボランティアの協力を得ながら実施していくほか、地域ぐるみで子どもを育てる社会を目指し、活動する団体を支援していく必要がある。 地域で活動する団体と協力しながら、親子で参加できる事業を通して親同士が交流できる場を提供していく必要がある。 コロナ禍において、計画していた様々な事業が、年間を通して実施できなかったため、新たな事業展開を検討する必要がある。	公民館
		○家庭教育向上のための学習機会の提供		0事業	1.9				公民館
(3)青少年教育の充実	①体験機会の充実 ②居場所づくりの充実 ③青少年関係団体の支援の充実 ④青少年を対象にしたスタッフ及びリーダー養成	○令和3年(2021年)成人式の開催	計画どおり実施	式典は、2部制から3部制へ変更して実施、出席率64.3%	5	5.0	出席率は64.3%であった。 式典の2部制から3部制への変更やオンライン同時配信など新型コロナウイルス感染症拡大対策を講じて実施した。	安心、安全な式典が開催できるよう情報提供・情報発信に努める。	社会教育課
		○青少年の豊かな心を育む事業の実施		左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	48事業	2.4	2.4	事業を実施した場合と参加者の80%以上の人が満足と答えた場合は5点満点(全館の平均点)。	青少年体験事業は、地域のボランティアや関係団体との連携による事業の企画を引き続き検討していく。事業を実施するスタッフの確保が十分ではないため、関係団体と協力しながらスタッフを育成する必要がある。地域の団体が主体となる事業については、地域交流・世代間交流につながる事業として協力していく必要がある。 コロナ禍において、計画していた様々な事業が、年間を通して実施できなかったため、新たな事業展開を検討する必要がある。

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(4)文化財保護・活用 の充実、伝統文化活動団体の 育成支援	①指定文化財の保護 ②文化財保護啓発事業の実施 ③近代化遺産の保存・活用 ④埋蔵文化財の保護 ⑤伝統文化活動団体の支援の充実	○指定文化財の新規指定に向けた審議の実施(3回)	3回実施	2回実施	5	4.7	新型コロナウイルス感染症の影響で審議の回数は減ったが、書面方式による会議の開催等により、各委員と意見交換を行い、指定文化財候補の抽出につなげることができた。また、旧黒須銀行の復元改修計画に対して貴重な意見をいただき、今後の計画に生かすことができた。	調査・研究により文化財の価値を高めることで、保存につなげるとともに、活用に関しても積極的に取り組んでいく必要がある。	博物館
		○指定文化財保存事業への支援(事業計画数3件)	3件	2件	5		指定文化財の保存に必要な事業に対して、補助金の支出等の適切な支援を行い、文化財の保存を図ることができた。なお、当初は3件の支援を計画していたが、うち1件が他の助成金により実施することになったため、対象外となり、2件となった。	市の補助金では対応できない場合もあることから、民間企業の助成金の情報等を収集し、適宜所有者等へ提供していく。また、今後補助額が高額になる事業が見込まれることから、所有者等との連絡をより緊密に取っていく必要がある。	博物館
		○指定無形民俗文化財保持団体の後継者育成事業を支援(6団体)	6団体	6団体	5		指定無形民俗文化財等の保持団体が行う後継者育成等の事業に対して、支援が必要な6団体へ補助金を支出し、文化財の保存を図ることができた。	新型コロナウイルス感染症の影響で保持団体も思うような活動ができていないことから、いま以上に保持団体の運営を支援していく必要がある。また、無形民俗文化財の効果的なPRの実施により、多くの市民に興味・関心を持ってもらえるように努めていく。	博物館
		○文化財講座、文化財防火訓練の開催(計5回)	5回	1回	4		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定していた事業のほとんどを中止または延期にせざるを得なかった。令和2年度に実施できた事業は、6月に予定していた事業を11月に延期して行った公民館との共催による文化財めぐり(1回)のみであった。	感染症対策を講じながら、身近な文化財の紹介を通じて、日常的に文化財に親しむ環境を整備していく。また、公民館や図書館等と連携することで、より多くの市民に文化財に関心を持ってもらう場をつくり、文化財の保護啓発につなげていく必要がある。	博物館
		○西洋館公開活用事業の実施(入館者数4,500名)	4,500名	1,196名	4		新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた一般公開や各種事業が中止となった。建物の一般公開は6月から3月までに30日間、西洋館の魅力を生かした主催・共催事業を計3事業実施した。入館者は、一般公開で1,057人、他の事業で139人、延べ1,196人であった。コロナ禍にあっても、少しでも多くの人に西洋館のことを知ってもらえるように事業を行い、保存活用につなげることができた。	感染症対策を講じながら、一般公開や様々な事業を実施することで、西洋館のPRと保護啓発につなげていく必要がある。また、令和3年度は西洋館上棟100年の記念すべき年に当たることから、効果的に事業を周知していくことで、来館者数の増加を図っていく。	博物館
		○西洋館ステンドグラス修繕の実施	実施	実施	5		館創建時に特注で製作された西洋館のステンドグラスは、経年劣化により破損の恐れが出ていたところ、令和元年度に公益財団法人朝日新聞文化財団の文化財助成事業に申請し、助成対象として認められた。これにより令和2年度に修繕を実施することができ、令和3年3月の一般公開日からは修復の完了したステンドグラスを公開し、西洋館の新たな魅力の発信につなげることができた。	ステンドグラスの修復を記念した報告会の開催やHP、SNSを活用した情報発信を通して、西洋館の新たな魅力となるように周知を図っていく必要がある。	博物館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(4)文化財保護・活用 の充実、伝 統文化活 動団体の 育成支援	①指定文化財の保護 ②文化財保護啓発事業の実施 ③近代化遺産の保存・活用 ④埋蔵文化財の保護 ⑤伝統文化活動団体の支援の充実	○西洋館館庭整備工事の実施	実施	実施	5	(4.7)	埼玉県ふるさと創造資金の補助金を受けて、西洋館館庭整備工事を実施した。工事に当っては、解体保管していた部材を使った裏門や灯籠の再建、また駐車場や休憩コーナーの整備を行い、西洋館の新たな魅力の創出や来館者の利便性の向上につなげることができた。	整備した設備を有効に活用することで、一般公開や各種イベントの充実につなげていく必要がある。	博物館
		○旧黒須銀行公開事業の実施(6回)	6回	4回	4		5月23・24日の特別公開については、新型コロナウイルス感染症の関係で実施できなかったが、11月6・7日及び3月13・14日の公開については計画通り実施する事ができた。	修復後の活用方法や運営方法の具体的な検討をさらに進める必要がある。2月からは、銀行設立にも関わった渋沢栄一を主人公とするNHK大河ドラマ『青天を衝け』の放送も開始。広報しているまで渋沢栄一特集が組まれたこともあって市内外で話題を呼んでおり、来年度以降公開日の日数等を増やして対応する事も検討中である。	博物館
		○旧黒須銀行保存活用基本計画の策定	策定	策定	5		昨年10月より旧黒須銀行保存活用基本計画策定検討市民会議を設置し、有識者や公募市民を含む10名で会議を行った。令和2年7月22日の会議をもって計画の内容検討は終了し、10月には「旧黒須銀行保存活用基本計画」が完成した。また、令和2年度には旧黒須銀行復元修理基本設計業務委託を行い、来年度には実施設計を予定している。策定された基本計画は今後の業務の指針となるものとなる。	保存活用基本計画の内容を実現できるよう、実施設計等の旧黒須銀行復元修理工事にに向けた業務を進めていく必要がある。	博物館
		○旧黒須銀行改修工事に係る基本設計の作成	作成	作成	5		令和6年度の改修工事完了を目標に、令和2年度は改修工事のための基本設計を実施した。設計に当っては、令和2年度に策定した「旧黒須銀行保存活用基本計画」をもとに、文化財保護の知識経験者の意見等も取り入れ、保存及び活用につながる設計とすることができた。	目標の達成に向けて、令和3年度に実施設計を作成し、令和4年度から復元改修工事が開始ができるように、計画的に事業を進めていく必要がある。	博物館
		○埋蔵文化財の調査及び報告書の刊行(全調査箇所)	報告書刊行	報告書刊行	5		開発に先立つ試掘調査を12件実施し、遺跡の所在確認と適切な保存に努め、調査結果を調査報告書として刊行することで、市民の埋蔵文化財への関心を高め、保護につなげることができた。	継続的に試掘・発掘調査等を実施していくことで、市内の埋蔵文化財の保護を図っていく。また、調査に円滑に対応できる体制を整備していくとともに、調査した遺跡等の情報を市民へ発信していけるように努める。	博物館

第1項 社会教育の充実

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(4)文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援	①指定文化財の保護 ②文化財保護啓発事業の実施 ③近代化遺産の保存・活用 ④埋蔵文化財の保護 ⑤伝統文化活動団体の支援の充実	○地域の伝統文化を守り育む事業の実施	左の学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を実施する	2事業	1.4	1.4	事業を実施した場合と参加者の80%以上の人が満足と答えた場合は5点満点(全館の平均点)。	地域の伝統文化を守り育む事業に取り組んでいるものの、取り組みが十分とは言えない。郷土芸能の発展と普及のため、団体を支援するとともに、地域の伝統文化の魅力を伝えられるような事業に積極的に取り組んでいく必要がある。コロナ禍において、計画していた様々な事業が、年間を通して実施できなかったため、新たな事業展開を検討する必要がある。	公民館

第2項 社会教育施設等の整備

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)施設の充実・最適化	①博物館施設の充実 ②図書館施設の充実 ③公民館施設の充実	○常設展示室の改修計画の研究	研究の進展	進展あり	5	5.0	常設展示室改修によって削減できる事業予算を洗い出し、実施計画に計上したところ、令和4年度実施の査定を得た。	査定された予算の範囲で、より充実した常設展示室の改修ができるように計画していく必要がある。	博物館
		○図書館情報ネットワークシステムの安定的運用を行うため、運営体制を整備	0回	0回	5		利用者に影響が及ぶシステムダウンは発生しなかった。	今後とも適切な運用を心掛けるとともに、不具合発生時に迅速な対応が取れるよう情報共有を図る。	図書館
		○埼玉県西部地域まちづくり協議会図書館部会を3回開催	3回	3回	5		緊急事態宣言のため2回は書面会議となったが、1回目は面会での会議が実施でき、情報共有は図れたため。	現状を維持していく。	図書館
		○官報データベースの導入	1件	1件	5		官報情報サービスの導入ができた。	現状を維持していく。	図書館
		○自動紙折り機購入	1件	1件	5		自動折り機の新設ができた。	引き続き、館内設備の更新に努める。	図書館
		○西武分館エントランス庇修繕	1件	1件	5		西武分館エントランス庇修繕が完了できた。	引き続き、館内設備の更新に努める。	図書館
		○西武分館書籍消毒機設置	1件	1件	5		西武分館書籍消毒機設置ができた。	引き続き、館内設備の更新に努める。	図書館
		○その他の館内設備の充実	1件	1件	5		感染拡大防止対策として、カウンターのビニールシート付け替えと閲覧席の亚克力板設置、おはなし会用の衝立の制作やパーテーション設置を行った。	引き続き、館内設備の更新に努める。	図書館
		○3分館の館内設備の充実等、分館の館内設備の充実を図る	2件	3件	5	5.0	会議室A、視聴覚室の空調設備改修工事を実施した。エントランス軒天庇改修工事、照明器具のLED化工事を蔵書点検期間中に行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、カウンターのビニールシート付け替えと閲覧席の亚克力板設置、おはなし会用の衝立の制作やパーテーション設置、各会議室へのふき取り用消毒液の設置などを行った。(西武分館) グリーンカーテンにノウゼンカズラを追加。金子独自の郷土資料を充実させた。YA書庫・一般文庫用書庫・紙芝居の棚を増設した。閲覧席に段ボールで仕切りを設置しカウンター周りも感染症拡大防止対策を行った。(金子分館) 試験前臨時学習室と夏期臨時学習室を開設した。各書架の見出しのリニューアルやチラシ架の新設、SDGsの常設展示設置した。カウンターにミニ展示コーナーを設置し、錯視やミニチュア工作等を展示し資料貸出しの促進に繋げた。ティーンズコーナーの表示をカウンターからでも見えるように改訂した。感染症対策としてカウンター・閲覧席の飛沫防止シートや仕切りの設置、入り口や館内表示を子供用と大人用の2種類作成し掲示した。(藤沢分館)	引き続き、館内設備の更新に努める。	図書館

第2項 社会教育施設等の整備

施策	主な取り組み	実施事業(評価対象事業)	事業目標(数値目標)	事業実績(数値実績)	事業評価点数	施策平均点数	事業評価点数の主な理由	課題及び改善点	担当
(1)施設の充実・最適化	①博物館施設の充実	○住民の多様な生涯学習活動に対応した施設整備の充実 (1)西武公民館ベランダ及び非常階段手摺塗装修繕 (2)黒須公民館非常用階段塗装修繕 (3)藤の台公民館駐車場舗装工事 (4)公民館非常用照明設備修繕 (5)公民館誘導灯設備修繕 (6)公民館自動火災報知設備修繕 (7)公民館自家用電気工作物修繕	工事・修繕を実施する	施設修繕60件 洋式トイレ設置工事 (黒須公民館) 空調設備改修工事 (金子公民館、東藤沢公民館)	5	5.0	限られた予算の中で、優先度の高いものの実施ができた。	工事・修繕については、施設の老朽化に対し、対応が追いついていないのが現状であるが、公共施設マネジメント事業計画と整合性を図りながら、限られた予算の中で優先度を判断し、緊急性の高いものから順次を実施していく。 公民館のバリアフリー化対策として実施しているトイレの洋式化については、毎年計画的に実施していく。	公民館
	②図書館施設の充実				○バリアフリー化、環境等に配慮した計画的な施設整備の推進 (1)バリアフリー化洗浄機能付洋式トイレ設置工事 (2)バリアフリー化トイレ手すり設置工事				5
	③公民館施設の充実								